## 彷徨へる心のまま に 昭 和

## 干 应 年 歌

見返りの陵を登ればうない。ことのである。ことのである。ことのできない。ことのままに のままに

簫々の闇 斯くある 天地に星の飛ぶなり 野は遙か去に は人と にとけ 八の宿命、 し日の面 Ŵ か Ś 影げ

> 清が 燃え狂ふ情熱 例かっ 0 玉ま 散ち る 知な性が 0 焰は

春まるさめ 苦べる も楡影つたふ しみに頬を濡らせば なり

Ē

相言 若き身の裏に留 の旅が がを逝く. めて

夏

0

絢ゥ

微 毛 風 せ 痛<sup>い</sup>ま 陽ひ 初な に 夏の野に陽炎たてばっ もしき魂 に咲き出 癒え て幸福は希望は の 疵<sup>‡</sup> 一づる華 0

光輝なき旧る

じりし仕種は

は

の舞ふ砂丘薄れ

7

の寄する汐音に

寥 マア 友もがき 汐飛沫浴が 斯く故え 月影が 秋深か 小き磯にた 々の孤杖を運ぶりょう。こじょう はこ の誓ひし言葉 に宿命解かん に千草ふみし び ・ 佇たず 彼ゕ 0 詩き と

又燃えぬ愛情と決意にまたものである。 を去る遊子の瞳 に時は流れ の 新 たな旅出 ぬ

伊 藤 池 露弘 田 基 君 君 作 作 Ж 詇

散り果\ 陵が 三春がとせ Ť て悲哀を秘め 夢原始林影に

叫ぶには余りに深く 消え去りぬ名残の水際はないないのなどは には余りに虚し

の赤き血粉の赤き血粉の赤き血粉の赤きの赤きの 潮よ の水が